

着せ替え人形付録にみる子ども服と教育効果

—Betty Bonnet を題材として—

太田 茜

雑誌付録の中でも手軽に遊ぶことのできる紙の着せ替え人形は日本だけでなく、諸外国の雑誌にもみられる。本研究ではアメリカの雑誌に付属する着せ替え人形に着目して描かれている人物、着せ替え用の衣服について分析した結果、様々な立場の人物が登場するもののいずれも雑誌の読者が属する階級の人物であり、着せ替え用に描かれている衣服もそのキャラクターが着るのにふさわしいものであったことが判明した。アメリカの雑誌は読者を啓蒙する姿勢で編集されていることが明らかになっており、紙の着せ替え人形も読者が自身の子どもに服装規範を教える教材として有用であり、手先の巧緻さを鍛えるという役割はあるものの、主に遊ぶ子どもの憧れを仮託する日本の着せ替え人形との違いが明らかとなった。

キーワード：雑誌付録 着せ替え人形 服装規範 子ども

1. はじめに

現在は雑誌につく付録には様々なものがあり、日本では特に2001年に日本雑誌協会が設けている自主規制が緩和されて以降は多様な品が付録として展開されている。このような付録の一つに、紙に印刷された人物と衣服のイラストを切り抜いて組み合わせる遊ぶ紙の着せ替え人形がある。この紙の着せ替え人形は日本だけでなく諸外国の雑誌にもみられるものであり、各国の子どもが遊んでいたと考えられる。日本における紙の着せ替え人形は子どもが抱く成人女性への憧れや「スターや物語の主人公に対するあこがれを、手元の簡便な紙玩具に託して実現する¹⁾」傾向があるが、それと同時にいわゆるごっこ遊びの道具として社会を学び、切り抜くことで工作技術を習得する教材としての役割があったとされる。他の国に目を向けると雑誌大国であるアメリカでも同様に着せ替え人形が付属している。しかし、付属している着せ替え人形については作画担当のイラストレーターの現在の美術品としての価値を伝えるものがほとんどであり、雑誌における着せ替え人形付録の役割について検討したものはみられない。アメリカにおいて雑誌、特に女性向け雑誌は情報を伝える事以外に、読者に様々な事を教え、良き人物となるように導くという啓蒙的な役割を果たしていることが明らかになっている²⁾。そこで、20世紀を通じて発行されていた女性向け雑誌に付属していた紙の着せ替え人形についても日本での着せ替え人形にみられる憧れを人形に託して実現するというよりは「いつ、どのような服を着るべきか」という服装に関する社会規範を学ぶ道具として付属していたのではないかと仮定し、分析を行った。本研究ではアメリカで発行されていた女性向け雑誌の大手の一つである *Ladies Home Journal* の付録に焦点をあて、着せ替え人形がどのようなキャラクターを想定しているか、またどのような衣服を着せられているかの検討を行い、遊ぶ子どもにどのような教育的効果を期待しているのかを明らかにした。なお、資料には日本女

子大学付属図書館所蔵の *Ladies Home Journal* マイクロフィルム版を使用した。

2. *Ladies Home Journal* と着せ替え人形

Ladies Home Journal (以下 LHJ) は 1883 年にフィラデルフィアにある The Curtis Publishing Company が創刊し、2016 年まで発行されていたアメリカの女性向け雑誌の中でも有数の部数を誇った月刊誌(部分的には週刊、隔週刊)である。主な読者は中産階級の女性たちで、多数の広告を掲載することで安くした定期購読料をセールスポイントとして読者を多数獲得していた。価格は本研究で扱う Betty Bonnet のシリーズが掲載されている 1910 年代では月刊の 1 部売りが 15 セント (2022 年時点では約 5.5 ドル) で年間購読を申し込むと 1 ドル 80 セント (約 54 ドル) かかるところが毎号の送料込みで 1 年間 1 ドル (約 30 ドル)³⁾ になるため年間購読を申し込む読者が多かった。発行部数は 1912 年の記録によると約 150 万部⁴⁾ である。創刊当初は *Ladies Home Journal and Practical Housekeeper* というタイトルであり、家庭の主婦のための実用誌という性格が強い。これは雑誌を購読する動機づけとして実用的な記事が多数掲載されているということが重要であったからだと考えられる。女性誌の記事は基本的に実用、教育、娯楽という 3 つの内容から構成されており⁵⁾、LHJ もその例に倣った内容で編集がされている。

LHJ には 1908 年から 1923 年までに紙人形や着せ替え人形のシートが挿入されており、いくつかはシリーズものとして編集されている。ほとんどは着色されているものであるが、白黒のものも一部にはあり、シリーズのサブキャラクターや背景となるイラストである。基本的には図 1 のような人形を中心に、複数の着替え用のパーツが周囲に描かれる。シリーズもの場合は主人公やその家族等が 1 シートにつき一人ずつ紹介され、それぞれのキャラクターにふさわしい衣服が着せ替え用として用意される。基本的には一枚のシートで着せ替えは完結しており、他の号のものとの互換性はない。各号の付録の概要は以下の通りであり、シリーズの名前がシートに記載されているものはそれによって分類を行った。

① The Lettie Lane Paper Family :1908 年 10 月～1910 年 5 月 (19 点)

図 1 のような Lettie Lane という女の子を中心としたシリーズである。1909 年 10 月～1910 年 5 月までの 7 点は “Presenting Lettie’s Sister’s Wedding” と題して Lettie の姉の結婚に絡めて特に結婚衣装や結婚式の出席者の服装等がわかるシートになっており、結婚の支度自体が雑誌のコンテンツとして成立するものであることがわかる。

② Lettie Lane’s Around-The-World Party :1910 年 7 月～1911 年 6 月 (13 点)

①の主人公である Lettie が各国を旅するという設定のシリーズで、その国の少年少女または親子等が描かれ、民族衣装等が付属する。1911 年 3 月、4 月にはシリーズとは別の単発のシートが 2 点掲載されている。

③ Lettie Lane’s Doll : 1911 年 7 月～12 月 (6 点)

Lettie が所有している人形のシートだが、紙人形ではなく実際の人形と着せ替え用の服の型紙の紹介記事で、LHJ を 3 年契約で定期購読して 4 ドル 50 セント (約 145 ドル) を送金すると人形 (Dalia という名前がついている) と着せ替え用の服の型紙を手に入れることができた⁶⁾。10 月号にはこのシリーズの他にハロウィーンパーティーの会場になる背景カードが付属しており、他の人形に使うことができるようになっている。また、12 月号



図 1 着せ替え人形の例 (LHJ 1909 年 5 月, p.25)

には切り抜いてクリスマスツリーとして組み立てて使うカードと、クリスマスディナーのお皿や料理を模したカードが付属している。これらは他の人形で遊ぶ際に使うよう指示がされている。

- ④ 単発のシート：1912年7月～1913年6月（8点）
- ⑤ A Cut-Out Circus For the Children: 1913年6月～11月（6点）
 - ④と⑤は着せ替えパーツがつかない紙人形で、人形を使ったごっこ遊びができるようになっている。
- ⑥ 単発のシート：1913年12月～1915年4月（16点）1915年1月は Lettie Lane シリーズのもの
- ⑦ Betty Bonnet: 1915年3月、5月、7月、9月、11月～1918年9月（36点）
 - 本研究で使用するシリーズ。
- ⑧ Peggy Perkin: 1918年10月～1919年1月（4点）
 - モノクロで描かれたもの。人形には背面があり、衣装も前後をつなげたパーツでくるむように着せる。
- ⑨ Harrison Cady による土台付き紙人形: 1920年9月～1921年12月（9点）
 - 作者の名前を冠したシリーズ。折って土台付きのフィギュアのようにして遊ぶもので⑧と同様に背面も描かれている。着せ替えがつかないシートもあるが、着せ替えの服がつく場合はいずれも前後がつながっている。
- ⑩ Twins: 1922年1月～12月（12点）
 - 男女の双子がいろいろな国の衣装を着るシリーズ。⑧⑨と同様に背面があり、衣装も前面と背面がつながったものを着せるようになっている。
- ⑪ 単発のシート：1923年1月～11月（11点）、1939年9月、1940年9月、1947年7月、1948年4月、5月

ここで扱う⑦の Betty Bonnet（以降ベティー）は LHJ に掲載された着せ替え人形のシリーズの中でも36点と最も多く、登場するキャラクターも様々である。作者の Sheila Young はこのシリーズの前にも LHJ で①②③の Lettie Lane シリーズの着せ替え人形の連載を持っている他、*Good Housekeeping* にも連載を持っていることが判明しており⁷⁾、イラストレーターとしての人気が一定以上はあるであろうことがうかがえる。結果として同一のキャラクターを使っている①～③の Lettie Lane に比べると一つのシリーズとしての点数として多いこと、また扱うキャラクターが多様なことから資料として有用であると考えてとりあげることにした。

3. Betty Bonnet シリーズ着せ替えシートの分類

着せ替えのシートは、描かれる対象によって以下の4つに分類することができる。一つのシートに二つの分類に属するキャラクターが描かれているものもあるが、メインとなる人物を分類することとした。末尾についている記号は以下の通りである。

★男子のみが描かれたシート

☆男女が描かれたシート

◆季節の行事等特定のシチュエーションでの服装が描かれたシート

(1) 子ども

ベティー自身や友人、いとこ等が描かれたシートであり、現在でいう幼児、児童に相当する子どもが着る服が描かれている。概ね普段着、よそ行きの服等が数パターン描かれ、人形も添えられている場合は人形の服も人間の着る服にあわせて数パターン用意されている。また、ベティーの妹、ベティーの姉の子ども等のシートも存在し、3～5歳程度の女兒の服や、彼らの子守の女性とその服装も描かれている。図2-1はベティーがはじめて LHJ に登場した号のシートである。8種類の衣装とそれに合わせた帽子が

描かれており、お気に入りの人形にも2種類の衣装が用意されている。素材などの説明はないため推測するしかないが、日常着とよそ行きの服が描き分けられている。子どもとその服が描かれているのは他に14点で、計15シートである。

- ・“Lettie Lane Introduces Betty Bonnet” 1915年3月, p.22
- ・“Lettie Lane Introduces Bill Bonnet” ★ 1915年5月, p.20
- ・“Betty Bonnet’s Best Friend” 1916年4月, p.30
- ・“Betty Bonnet’s Nest-Door Neighbor” ★ 1916年5月, p.26
- ・“Betty Bonnet’s Twin Cousins” ☆ 1916年7月, p.38
- ・“Betty’s Bonnet’s Little Niece” 1916年11月, p.34
- ・“Betty’s Bonnet’s Christmas Party” ☆◆ 1916年12月, p.29
- ・“Betty’s Bonnet’s Country Cousins” ☆ ◆ 1917年3月, p.29
- ・“Betty’s Bonnet’s Patriotic Party” ☆ ◆ 1917年7月, p.26
- ・“Betty’s Bonnet’s Halloween Party” ☆ ◆ 1917年10月, p.38
- ・“Betty’s Bonnet’s Shops Early” 1917年12月, p.33
- ・“Betty’s Bonnet’s New Year’s Callers” ☆ 1918年1月, p.24
- ・“Betty’s Bonnet’s Valentine” ★ ◆ 1918年2月, p.40
- ・“Betty’s Bonnet’s Rainy Day Party” ☆ 1918年4月, p.26
- ・“Betty’s Bonnet’s Goes to a Wedding: The Page and The Flower Girl” ☆ 1918年9月, p.24

ここで描かれているキャラクターは実際に着せ替え人形で遊ぶことを想定されている年齢の子どもたちであり、読者が自分の子どもに与えることを想定して描かれている。そのため図2-2のような誌面に掲載された服と同じデザインの服が描かれており、子どもは遊びながら季節や場所にあわせてふさわしい服を選び、着替えるという習慣を身につけていけるよう工夫をしていたのではないかと考えられる。

また、季節の行事に合わせた服装が取り上げられているシートもあり、◆の印がついているものはハロウィンやクリスマス、独立記念日等の行事のものである。また、郊外に遊びにいった先で着る服等もテーマとして取り上げられている。

(2) 少女・若い女性

実際に着せ替え人形で遊んでいた子どもは数年後には少女から大人へと成長してゆくのだが、その姿として描かれるのがこの分類に入るベティーの姉やいとこたちである。10代後半から20代前半の女性はカレッジや寄宿学校に通う他、結婚して子どもを持つことを想定している。そのため彼女たちのシートには日常的に家の中で着る服以外に外出着やパーティー用のドレスが描かれることが多い。また、LHJにはこの10代後半の女性をターゲットにした自分の服を自分で縫うという内容の記事がシリーズで掲載されており、読者が自身の子どもの服作りを教える際の教材としても活用できることがうかがえる。

① 学生の服装を紹介するもの

- ・“Betty’s Bonnet’s College Sister” 1915年9月, p.18
- ・“Betty’s Bonnet’s Boarding-School Sister” 1916年2月, p.38



図2-1 子どものシートの例 (LHJ 1915年3月)



図2-2 子ども服の記事 (LHJ 1915年9月, p.66)

- ・“Betty’s Bonnet’s College Cousins” ☆ 1917 年 6 月, p.33
- ② 成人女性の服装を紹介するもの
 - ・“Betty’s Bonnet’s Married Sister” 1916 年 9 月, p.26
 - ・“Betty’s Bonnet’s Camp-Fire Cousin” ◆ 1917 年 2 月, p.37
 - ・“Betty’s Bonnet’s Teacher” 1917 年 4 月, p.27
 - ・“Betty’s Bonnet’s Goes to a Wedding: The Bride” 1916 年 6 月, p.28

図3は1915年9月号のものでベティーの姉が描かれ、通学着、外出着、パーティー用の服やゴルフクラブを持った服などがそえられている。ゴルフクラブを持ったジャケットのみのパーツは、手に本をもってブラウスとあわせたスカートと共布で、ゴルフ用のスーツのスカートをカジュアルな普段着としても着まわすことができると推測できる。また、和服の中振袖と思われるパーツがあり、これは仮装用ではないかと考えられる。図4は1916年9月に掲載された図3とは別のベティーの姉で、結婚する年頃の女性がどのような服を着るべきかという視点で衣装が用意されている。全体的に豪華な印象のものが多く、毛皮の襟巻とマフ（防寒用の筒状のアクセサリ的一种）のセットや毛皮で縁取りされたコートなどが描かれている。

また、翌月のシートにはこの姉が産んだ赤ん坊とその着替え、ベビーベッドが描かれ、着せ替え衣装としては新生児の世話をするための服装が掲載されている。

(3) その他の人物

ベティーの兄弟や両親、使用人等が描かれたシートであり、様々な服装が扱われている。第一次世界大戦にアメリカが参戦した1917年には陸軍・海軍に進んだ従兄たちが描かれ、それぞれの制服や小物が添えられるといった時勢を考慮したシートも用意されていた。図5はベティーの両親を描いており、母親の服装については(2)の若い女性の服装と比較するとシンプルで落ち着いた印象のものが掲載されている。また、ゴルフ以外にこういった階級の人物がたしなむスポーツとしてテニスがあり、他の着せ替えシートではその用具が描かれている。図6の使用人のシートではベティーの家の使用人たちが複数描かれ、メイドや料理人等が読み取れる。メイドと子守の女性には着替えが用意されており、彼女達の仕事着についても使い分けが必要なが示唆されている。読者の家庭に使用人が必ずいたとも限らないが、誌面では家計の内訳記事の中で使用人の給金が割り振られていることが多い。したがって使用人がいる家庭の人間であれば使用人の服装についてもどのようなものを着せるべきかを知っておくべきであるという考えが背景にあるといえる。

- ・“Lettie Lane Introduces Betty’s Bonnet’s Little Sister and Her Nurse” 1915 年 7 月, p.18
- ・“Betty’s Bonnet’s Brother Bob” 1915 年 11 月, p.32
- ・“Betty’s Bonnet’s Father and Mother” 1916 年 3 月, p.34



図3 学生のシートの例 (LHJ 1915年9月)



図4 成人女性のシートの例 (LHJ 1916年9月)

- ・“Betty’s Bonnet’s Dearest Dolls” 1916年6月, p.32
- ・“Betty’s Bonnet’s Sister’s Baby” 1916年10月, p.34
- ・“Betty’s Bonnet’s Sister’s Son” 1917年1月, 33
- ・“Betty’s Bonnet’s Big Brother” 1917年5月, p.40
- ・“Betty’s Bonnet’s Grandparents Now and Long Ago” 1917年9月, p.26
- ・“Betty’s Bonnet’s Army and Navy Cousins” 1917年11月, p.34
- ・“Betty’s Bonnet’s Household Servants” 1918年3月, p.34
- ・“Betty’s Bonnet’s May Basket” 1918年5月, p.26
- ・“Betty’s Bonnet’s Goes to a Wedding: The Bridegroom” 1918年7月, p.28



図5 ベティーの両親 (LHJ 1916年3月)



図6 ベティーの家の使用人たち (LHJ 1918年3月)

(4) 人物以外のシート

- ・“Paper Furniture For Your Betty Bonnet Doll” dining room and bedroom, 1915年11月, p.32
- ・“Paper Furniture For Your Betty Bonnet Doll” kitchen, living room, hallway, 1915年12月, p.38

この2つは着せ替え人形で遊ぶ際に使う家具を紹介するシートで、使用する家具は印刷された紙を切り取って糊で貼り合わせて組み立てるペーパークラフトである。具体的にはソファ、ベッド、テーブル等それぞれの場所に必要なのが用意されているが、誌面にはその出来上がりの写真が掲載されているだけである。これらの家具は、一つにつき5セント切手を同封して編集部注文すると、ペーパークラフトの用紙が手に入る仕組みであった。

4. 結論：着せ替え人形とその教育的効果

着せ替え人形に付属している服は描かれているキャラクターの年齢、立場、行く場所や時間帯にふさわしいと考えられるものを設定している。設定されている服はLHJの読者である中産階級かそれ以上のものであり、このような着せ替え人形で遊ぶことで自然と大人になった時にどのような服装をするべきかという服装規範を身につけられるようになっている。実際にLHJに掲載されている服飾に関する記事は季節や場所に限定された服装が細かく記載されているものが多いが、それぞれのシートに描かれてい

る服装と照らし合わせると似たようなものが紹介されている。図2-2はLHJ1915年9月号に掲載された子ども同士のパーティーや学校へ着てゆく子ども服の記事で図2-1の中段や下段に描かれた服と同じようなものが掲載されている。着せ替えて遊ぶことで子ども本人は自分が学校や外出の際はそれにふさわしい服装をするといったことを学習してゆくものと考えられる。また、図7で紹介されている服はいずれも夏に適した涼しいドレスとされており、シンプルかつドレスリーで様々な場面で着ることができるという説明がついている。図3や図4で描かれているのは着せ替え人形で遊ぶ子どもにとっては自分が成長した結果こうなるのが望ましい、という憧れの姿ではあるが、その服装はあくまで現実的なワードローブの範囲内である。LHJは誌面を通して読者となる中産階級の女性にあててどのような服を着るべきかという服装規範を一貫して提示しており、子どもの頃からその規範の元で成長し、読者となってゆくことで自然と必要な衣服の知識や規範を身に着けることが出来ていたといえる。したがって着せ替え人形は手軽な玩具としてつけられている雑誌附録ではあるがその教育効果は高く、親も安心して子どもに与えられるものとして受容していたのではないかといえる。



図7 成人女性の服の記事 (LHJ 1915年7月, p.53)

参考文献

- 1) 森下みさ子「紙製着せ替え人形」の変容－着せ替え遊びの原形質をめぐって」『人形玩具研究』28号、pp.139-150、2017年
- 2) 桑名淳二『アメリカ雑誌をリードした人びと』(風濤社、165頁、2003年)
- 3) <https://westegg.com/inflation/>にて計算を行った。
- 4) Mary Ellen Zuckerman, *A History of Popular Women's Magazines in the United States, 1792-1995*. (Greenwood Press, 1998), p.29
- 5) パトリシア・オッカー著、鈴木淑美訳『女性編集者の時代』(青土社、130頁、2003年)
- 6) *Ladies Home Journal*, 1 March 1911, p.4
- 7) Mary Young, *A Collector's Guide To Magazine Paper Dolls*, (Collector Books, 1990), p.72-78

(受付 2023.3.24 受理 2023.7.11)

